

3 公開授業指導案

(1) 英語Ⅱ学習指導案

- 1 日時 平成17年11月18日(金) 2校時(10:00~10:45)
- 2 場所 多目的ホール
- 3 対象 2年7, 8組(グローバルコース文系) 男子18名 女子14名 計32名
- 4 指導者 教諭 橋口信博
- 5 単元名 Lesson 7 Wilderness in a Bottle (CROWN English Series II 三省堂)

6 単元目標

- (1) リーディングストラテジーの一つとして記号付けをしながら英文を読む練習をする。
- (2) 新出言語材料を理解し、使えるようにする。
- (3) シードバンクの役割を理解する。
- (4) 環境問題について自分の意見を述べる。

7 単元設定の意図

(1) 教材観

このレッスンは、高校生の太郎が夏休みを利用してイギリス・サセックスにあるミレニアム・シードバンクを訪問する設定である。ミレニアム・シードバンクは積極的に訪問者を受け入れ、植物に関する教育活動や啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。そこでのツアー客に対するガイドの説明が本文となっている。環境問題は現在の地球が抱える最大のテーマの一つである。地球温暖化、森林伐採、酸性雨、砂漠化などにより、多くの有用な植物が危機に瀕している。こうした問題に対処するためにシードバンクが果たしている役割を理解させるとともに、授業と並行して朝の10分間読書において環境問題等についての英文を読ませ、この問題について深く考えさせたい。

言語材料としては ①仮定法現在(提案・要求・命令を表す動詞+that節) ②if+主語+should/were to+動詞の原形 ③助動詞+完了形 ④助動詞(would) を扱う。

(2) 生徒観

グローバルコースは、入学以来1年半の間、文理混合クラスとして理科3科目を始め、色々な科目を履修して、この10月(2年生後期)より文系(32名)と理系(46名)に分かれた。対象クラスのグローバルコース文系クラスは、2年7組より15名、2年8組より17名が集まって構成されている。新しいクラスになってまだ1カ月あまりで、活動などにおいては活発だった8組に比べてややぎこちなさがある。学力に関しても、GTECのトータルスコアで330の生徒から663まで大変幅広くなっている。

(3) 指導観

授業は従来どおり、予習プリントに沿って進めていくが、前レッスンより大きく次の3つの点を変更した。

まず、日本語訳についてである。英語Ⅰと英語Ⅱの授業はSELHiの指定以来1年半、主に穴あきの日本語訳を利用して指導してきた。この日本語訳を全訳から要約に変更した。和訳に頼っている生徒たちの意識を変えていきたい。

次に、文法・構文の指導についてである。英文の構造把握のために、主語・動詞・接続詞・関係詞や修飾関係などに記号づけをし、等位構造などを並列した構文解析シートをLesson3, 4, 5の3つのレッスンで使用してきたが、前レッスンより構文解析シートにならって自分で記号づけをする方式に変えた。記号付けをリーディングストラテジーのひとつとして、自らボトムアップ的な処理をしながら英文を読む力を養いたい。

3つ目に、授業中のタスクの進め方である。教師対生徒全員という形態から生徒同士のペアやグループでの活動を多くした。生徒同士の学び合いの中から、エラーに対するフィードバックを期待する。

8 指導計画 (全8時間)

	内容	小テスト
1 時間目	導入, 文法事項の説明	
2 時間目	全体の概要把握	
3 時間目	Section 1	
4 時間目	Section 2	Section 1 の単語
5 時間目	Section 3	Section 2 の単語
6 時間目 (本時)	Section 4	Section 3 の単語
7 時間目	Comprehension, Exercise	Section 4 の単語
8 時間目	発展教材, 意見交換	

9 本時の学習

- (1) 目標
- i) 様々なタスクを通して英文の内容理解を深める。
 - ii) 英文を利用した言語活動により学習した表現を使えるようにする。
 - iii) シードバンクが自然環境保存の保険の働きをしていることを理解する。

- (2) 準備
- i) 教科書
 - ii) ワークシート
 - iii) 辞書
- (小テスト, プロジェクター, 写真)

10 指導過程

過程	時間	指導内容 (目標)	生徒の活動	留意事項及び評価	備考 ☆予習 ★計画書との関連
導入	2分	音読	Section3のShadow reading をする	・レディネスを高める ・正しい発音・イントネーション で音読できているか (表現の能力)	☆Section 3を音読シートを 利用して読んでくる ★2(2)音読の指導
	5分	小テスト	Section 3の単語・熟語の小テ ストを解く	・正しい綴りで書けているか (表現の能力)	
展開	3分	Task 2 音声を開いて スラッシュを入れる	CDを開いてスラッシュの位 置を確認する	・チャンクを確認させる	☆Task1要約を読んでくる ☆CDを開いてスラッシュを 入れてくる
	3分	Task 3 新出語彙の 確認 (ワードハント)	教師の言う日本語に相当する 単語を英文の中から探す	・日本語を聞いて素早く英語を探 せるか	
	7分	Task 4 英文構造の把握 文法事項の確認	グループで各文の主語・動 詞・接続詞の部分を読み合い 確認する 教師の説明を聞く	・英文の構造が理解できているか (理解の能力)	☆主語・動詞・接続詞に記号 をつけてくる ★2(1)リーディングストラテ ジーの指導
	7分	Task 5 読みを深める	①スライドを見ながら奥日光 についての教師の説明を聞く ②教科書106ページの写真は 本文のどの文と関係が深いか グループで意見を出し合う	・作者がどのような意図で写真を 載せたのかを推し量ることがで きたか (理解の能力)	☆関係が深いと思う文を選ん でくる
	6分	Task 6 英問英答(内容理解)	内容に関する英問英答をグル ープで確認する	・答えにあたる部分を本文で見つ けられるか (理解の能力) ・正しい英文で書けているか (表現の能力)	☆英問の答えになる部分を探 し、英語で答えてくる
	7分	Task 7 T/F Question (内容理解)	①T/F Questionをペアで出し 合う ②教師が出題したものを書き 取り、全員で答える	・活動に真剣に取り組んでいるか (関心・意欲・態度) ・わかりやすい音量・発音で問題 が出せているか (表現の能力) ・相手の質問を理解し答えること ができたか (理解の能力)	☆T/F questionを作ってくる ★3(1)読む活動から話す活動 へ。読んで理解したものを 基に英語で情報を伝えられ るようにする
まとめ	5分	音読 次回の予告	Chorus reading Buzz reading (2方読み) 宿題としてサマリーを作成す る(80語程度)	・真剣に音読に取り組んでいる か。(関心・意欲・態度) ・正しい発音、流れて読めている か (表現の能力)	★2(2)音読の指導 ★3(2)読む活動から書く活動 へ。読んで理解したものを 基に英語で情報を伝えられ るようにする

☆指導のポイント

過程	時間	指導内容 (目標)	生徒の活動
導入	2分	音読	Section3のShadow reading をする
	5分	小テスト	Section 3の単語・熟語の 小テストを解く
展開	3分	Task 2 音声を開いてスラッシュを入れる	CDを開いてスラッシュの 位置を確認する
	3分	Task 3 新出語彙の 確認 (ワードハント)	教師の言う日本語に相当する 単語を英文の中から探す
	7分	Task 4 英文構造の把握 文法事項の確認	グループで各文の主語・動 詞・接続詞の部分を読み合い 確認する 教師の説明を聞く
	7分	Task 5 読みを深める	①スライドを見ながら奥日 光についての教師の説明を 聞く。 ②教科書106ページの写真は 本文のどの文と関係が 深いか グループで意見を出し合う
	6分	Task 6 英問英答 (内容理解)	内容に関する英問英答を グループで確認する
	7分	Task 7 T/F Question (内容理解)	①T/F Questionをペア行う ②教師が出題したものを 書き取り、全員で答える
まとめ	5分	音読 次回の予告	Chorus reading Buzz reading (2方読み) 宿題としてサマリーを作成 する (80語程度)

Shadow reading で前時の内容と合わせて単語テストに出題される単語がどの文で使われているのかを確認させます。

試験範囲は Section 3 の中から前時に指定した 10 語です。テストは B6 サイズの裏紙を使用して、その場で 1～5 まで番号を書かせて行います。(事前のテスト作成が不要でラクです。ミスプリントの裏紙を使って環境にも配慮しています。) 出題方法は、「ロボン!リスニング・クローズ」(静哲人『英語テスト作成の達人マニュアル』p.162) と呼ばれるやり方で、**本文を読みながら目標単語の位置で音を出して出題します。**

生徒が持っている教材付属の CD よりもポーズがはっきりするように ALT に読んでもらったものをテープで流し、スラッシュの位置を確認させます。**スラッシュを入れることで内容把握が容易になることをわらいます。**

教師が言う日本語にあたる単語・連語を探させながら、**本文に目を通させます。**10 題程度出題します。生徒はこれがそのまま次の時間の小テストの範囲になることがわかっているので、真剣に取り組めます。

英文に記号を付けながら自力で読解する力を養成します。

主語 (動詞) 接続詞 (動詞)
セン マル シカク セン マル

106 ページの写真を補足するためにプロジェクターを使って奥日光の現状を説明します。この出題に正解はありません。**英文を読みとった上で、生徒間でおもしろい議論になることをわらっています。**

グループで確認をさせた後、教師が正解を示します。質問がないか確認します。

全訳を要約に変えたことで、T/F Question は作りやすくなりました。単に否定を肯定に変えたり、名詞を入れ替えるだけでない問題を作るためには、かなり苦勞するはずですが、その過程で**本文を読み込んでくることを期待します。**

最後に音読で締めくくります。まず、教師の後に付けて発音を確認した後、各自で 2 回音読をします。

これまでの Section にならってサマリーを 80 語程度で書いてくるように指示します。